

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102412		
法人名	医療法人 敬天会		
事業所名	グループホーム野の実		
所在地	長崎県諫早市多良見町舟津299-6		
自己評価作成日	令和 5年 7月20 日	評価結果市町村受理日	令和 5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大村湾を一望できて、夏は夏越し祭りの花火大会が見え、秋には地域特産のみかんで山が色づき、自然豊かな環境の中で静かに流れる時間をゆったりと過ごして頂いている。
木の温もりを感じられる建物で季節を感じられる花などを飾り居心地の良い空間づくりを行っている。
職員のアイデアを出し合った行事など生活の中に楽しみを持ってもらっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 5年 9月30日

ホームは諫早市街から離れた自然豊かな場所に木の温かみを感じられる構造で建築されている。対岸には大村空港、眼下には大村湾を眺め、電子音のない、虫の声や自然の風の流れを気持ちよく感じることができ、おのずと入居者の心も穏やかにしてくれることが窺われる。ウッドデッキに出て外気浴をして四季の移ろいを感じ、入居者はゆっくりとした時間を過ごされている。昨年はコロナ感染症により様々な制限のある生活となった時期もあったが、職員は行事や日々の暮らしの中で「その人らしさ」を大切に、入居者が安心して暮らせる環境づくりに努めている。『日々生懸命、目の前の課題に向き合って共に相談しながら業務ができています』、『入居者のことを第一に考え、家族にも「入居をすすめてよかった」と言ってもらえる支援を行っていきたい』と明るく語る職員に好感が持て、入居者本位の関わりを実践していることが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ユニットの入り口、ホームの二階に敬天会の理念を掲示しており日々確認しながら実践に努めている。その人らしい暮らしのために寄り添っている。入居者の方にとって何が一番大切か追及するように心がけている。	見えるところに掲示している。また、理念の共有のために研修にも取り入れている。	法人代表と管理者は日常的に入居者の暮らしに関わりを持ち、入居者が日々心豊かに暮らすことを大切にしよう伝えている。職員は『目配り・気配り・心配り』を意識し、職員間で接遇や支援の方向性を話し合いながら入居者の気持ちや体調を優先し、理念の共有・実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、祭りなどの催しに出かけていたが、近年はできていなかった。	現在コロナの影響もあり交流できていないが、コロナ禍前は地域のイベントに参加していた。(夏祭り、収穫祭等)	ホームは清閑な場所に位置し、近隣は日中不在の世帯が多い住環境のため地域住民との付き合いが難しい部分もあるが、今年度は敬老会での催し物を案内することで地域住民の出席もありホームを知っていただくきっかけとなった。感染症対策により地域行事への参加ができないこともあるが、ホームとして地域との関係構築に意識を持ち取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コンビニや薬局に事業所紹介のポスターを掲示、また近所の駐在所にパンフレットを置かせてもらっており、地域の方々の困りごとに対応できる姿勢を示している。	推進会議を通じて活かしている。また、地域の方からの相談等も応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みを紹介、事故報告などを行い、意見をいただき改善点を確認するなどサービス向上に活かしている。	現在コロナの影響で書面上での会議ではあるが、包括センター、駐在所、市に意見等FAXでいただき、サービス向上に活かしている。	今年度の運営推進会議は書面開催となっているが、ホームの行事や事故報告などを参加者に書面で示し、運営の透明性に努めている。書面内容について個別に問い合わせを受けるともあり、詳細を伝えることでホームの実情を伝え、出された意見を運営に活かしながらサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して意見をいただくように取り組んでいる。また日頃より連絡、相談を行っている。	運営推進会議にて意見を伺っている。	今回、法人代表を通して行政より国の会計監査の協力依頼を受け、資料の提示や質問への回答など市と協力して対応を行った。各種手続きなどで行政と法人代表が関わる機会も多く、制度改正への対応等、情報交換の機会も多くある。困難事例が生じた際には積極的に行政に問いかけ、適切な対応の確認や課題解決に向け取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時や入職後も定期的に研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠をしていない。	日中は施錠せず、見守り言葉かけで対応している。また、定期的に研修もおこなっている。	ホームでは入居者個々の言葉を否定せず、考えを受け入れる関わりを持つことを大切にしている。入院後の入居で、ミソンの使用等身体拘束に該当する行為があった際には、これまでの経緯を確認し、衣類や住環境の整備などホームでできる対応を話し合いながら身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を定期的に行っており、虐待防止の徹底を行っている。スタッフ間での情報を共有、また言葉遣いにも注意している。	施設内での研修で学ぶ機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を持ち制度についての理解を深め活用できるようにしたい	学ぶ機会を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解納得いただけるように取り組んでいる。	契約時に書面をもって説明を行っている。また、不安や疑問等に対してもいつでも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方やご家族はいつでも意見や要望を表せるようになっており、いつでも受け付ける体制がある。意見箱を設置している。	意見箱を設置している。	ホームでは入居者の言葉を妨げない関わりを持ち、本音や要望を引き出す機会を多く持っている。家族へ体調変化や状況報告等、連絡を細かに行うことで意向を把握し、家族との話し合いの結果は職員間で情報共有がなされている。毎月発行される事業所たよりで暮らしぶりを可視化し、本人の状態把握や運営への理解に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでもスタッフは、意見や提案を言うことができる雰囲気づくりに努めている。 月1回の定例会で全体に反映できる。	ミーティングなどや申し送り時に自由な意見が出るように心がけている。	管理者は日常的に入居者の支援に従事することで運営状況の把握に努め、職員意見の集約に繋げている。ホームでは職員のチームワークとマナー向上を大事にしており、経験豊かな職員が具体的な介護技術を伝えることでスキルアップを図り、職員相互の経験や知見の共有に繋げている。	現在、職員間で話し合う機会も多く、風通しのよい職場環境となっているが、介護現場においてもハラスメント防止のために必要な措置を講ずることが求められていることから、より職員意見を円滑に反映させられるよう、ハラスメントに関する研修や、ホームの基本方針、マニュアル整備、相談対応窓口の設置等、今後具体的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境や条件の整備に努めており、職員より意見を聞いて改善に努めてくれる。実績、有資格者は昇級実施。	努めていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の定例会で研修を行っている。 また、法人外の研修を受ける事を推奨している。	段階を経ての勉強や内外の研修等の参加を積極的にすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの呼びかけで同業者との勉強会に参加した。 市のグループホーム連絡協議会に加入しており研修等への参加を予定している。	法人内での会議などで、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の状態を観察し、本人の話を伺いながら安心できる関係作りに努めている。 事前に情報収集に努めている。	入居前より情報提供を基にご本人を受け入れる体制に努めている。 入居初期は特にコミュニケーションなどこまめに行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前よりご家族の意見、要望などを伺いながら、いつでも何でも言って頂ける関係づくりに努めている。	初期段階では、ご家族もご本人も不安なことが多いためまめに電話等行い関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時よりご本人、ご家族の状態、要望等を十分に伺うようにして必要な支援を見極めるように努めている。	必要となる支援については、ご家族とご本人にも聞き取りや話を聞きながら努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることは極力して頂いている。 家事手伝いなど、協力しあって生活を共にしている。	家事手伝いなど一緒にできることを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、ご本人の精神的な支えとなっていることを十分に理解していただき情報を共有しながら関係作りに努めている。日頃の様子を伝えるようにしている。 面会できない時は、TV電話などを活用している。	ご本人とご家族の絆は、とても大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会などは、いつでも受け入れている。親戚や友人などからの電話、手紙などはいつでも受け付けている。	馴染みの方からの電話等はご本人が理解できるように努めている。居室にはなじみの物を置いて頂いている。	現在は感染症防止の観点から積極的な外出を控えているが、ホームは本人の馴染んだ生活を継続できるよう受診帰りに自宅周辺に立ち寄り、思い入れのある場所の理解に努めている。また家族と過ごす時間を大切に考え、面会時間にはゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮し、外食の提案をするなど家族との繋がりを感ぜられるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格、相性、ADL状態などを考慮し座席を決めたり、より良い関係性作りに努めている。	誕生日会などでは、一つのテーブルに全員でお祝いしたり普段の生活では、席順も関係性を考慮して決めさせていただいている。孤立しないようにスタッフが関わりを持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もお便りをいただいている。	電話や事故がある時は丁寧に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の言動や表情、思いをくみとり以降の把握に努める。今までの生活歴を考慮し本人に合わせた対応を検討している。	カンファレンスや日常の中で希望などあったり気づいた時は本人本位に検討している。	職員は入居者との丁寧な会話を心がけており、入居者の言葉を受け入れることを大切にした関わりを実践している。入居者との会話や生活歴から好きなことや過ごし方を把握し、おしゃれや趣味活動、大切にしている習慣など「本人がやりたいこと」を遮らず、本人本位の暮らしを継続できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族より情報をいただいたり、本人の話を十分に聞き取り、情報の把握に努めている。	生活歴やこれまでのサービス利用の把握はとても重要と考える。すぐ把握できるようにファイリングしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の状態、生活パターンを把握している。日常のバイタル測定や排便の有無の確認、排便コントロールなど記録し活用してる。	バイタルチェックを基本に心身状態や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議(面会時や電話で要望確認)を通じてニーズをきいたり、本人の話や状態により課題を見つけ本人の状態にあった計画を作成している。	毎月のモニタリングやカンファレンスにより介護計画を立てている。ご家族、ご本人にも意見、思い、意向をうかがっている。	介護計画は家族に現状の報告や意向の確認を行い、会議を通じて職員間の話し合いのもと担当者が作成している。入居者の体調変化など状況変化に応じて介護計画の見直しを行い、本人に無理のない内容で作成されている。バイタルや食事記録、個別記録などを踏まえ、次回の介護計画の作成に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に記録し課題について申し送り、連絡ノートを通じて情報を共有し実践につなげている。定期的にモニタリングにより見直しに活かしている。	個別記録を毎日記入している。伝言ノートも活用し職員間で情報を共有、検討し介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応ができるように介護職員とは別に料理、掃除などのパートを採用するなど。 ご家族に代わって個人の買い物などの支援を行っている。	受診の付き添いや個人購入の支援も行っている。また、看取りケアの時はご家族に休憩して頂く場所を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。地域の美容室より、定期的に訪問美容に散髪をたのんでいる。	地域にある公園に出かけたり支援している。また、定期的に訪問美容を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携診療所により隔週の訪問診療	主治医の回診が週1回あるが必要によっては専門医の紹介もしてもらっている。	入居後、ホーム協力医へ変更する場合も多いが、本人や家族が望むかかりつけ医を継続することも可能である。医療連携看護師による週2回の訪問時には、対応方法について助言を受ける機会があり、職員は日々の検温や食事量、排泄状況によって体調を把握し、病気の早期発見・重症化予防に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師による訪問看護が月2回以上ある。状態報告により適切な受診などが受けられるように支援している。	訪問看護時に状態の報告をしている。訪問看護時に関わらず相談、報告できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院による紹介状態で必要な医療を適切な病院で受ける事が出来ている。また、病院関係者との情報交換で関係づくりに努めている。	入院時は情報提供を行い、入院中も電話などで情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方について主治医より十分に説明をしていただき家族と話し合いを行ない同意を得て必要書類に記入いただいている。	終末期においては、ご家族、ご本人の思いを尊重し主治医の指示のもとチームで支援に取り組んでいる。事業所にて出来ることを十分に説明させて頂いている。	これまでホームでは看取りの経験があり、本人が無理なく食べれるものを準備するなど家族の協力を得て希望に添う対応を行っている。本人は食事の離床や入浴等、身体を清潔に保ち最期までいつも通りの生活を過ごすことで本人はいつものホームの輪に入り過ごすことができ、その人らしい最期の迎え方ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを備えている。職員は応急手当、初期対応の訓練を受けている。緊急時は主治医に連絡し指示を受けている。	施設内の研修時に急変や事故発生時の対応の仕方など行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回避難訓練を実施。防災訓練等、研修も行っている。また、地域の消防署、消防団との協力体制を築いている。	定期的に消防訓練、避難訓練風水害時の勉強会を行っている。家電のほこり等点検掃除にも努めている。	ホームでは定期的な訓練を行い、避難誘導や初期消火の方法等有事の際に迅速に対応できるよう努めている。ホームは山間部で急こう配の坂がある地域であり、以前は大雪による交通の困難さを経験し、停電被害後には自家発の整備などを行った。職員の経験は今後の対策として話し合う機会を持ち、業務継続に活かされるよう取り組んでいる。	現在、災害発生時の入居者情報持ち出しファイルを作成しているが、当該ファイルに入居者の顔写真は添付されていない。有事の際、避難場所において円滑に入居者確認や情報提供等の対応ができるよう情報を充実させることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応の仕方について個人に合わせて行っている。接遇の研修などを通し日々研鑽に努めている。個人のプライバシー保護に配慮している。	日常時はもちろんのこと、特に排泄時など気を付けている。(パット交換が必要な時は本人が汚したのではない声掛けに努めている)	入居者の生活リズムを大切にしたり関わりに努め、必ず本人に意思確認を行いケアを実践している。職員は入居者の言葉を否定せず、受け入れることを前提にし、今年度の接遇研修では言葉遣いや挨拶等現状の振り返りを行った。職員は気配り目配り、心配りを念頭に支援に努め、丁寧な関わりを持たれている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表しやすいように十分に話しを聞き自己決定できるような選択肢を提示している。	本人の状態に合わせた言葉かけを実施し会話や表情をくみとり自己決定できるように働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、希望を聞きながら支援している。	自由に過ごして頂いている。体調を把握しお伺いしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中着など選べる方には本人に選択していただいたり、身だしなみにも必要な支援を行っている。(顔をふく、髭剃り)	入居時にご家族から用意していただいている。化粧品などの要望があれば購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話から好きな食物を把握し、特別メニューの日などに反映させている。(誕生日会のケーキ、行事の日の食事) 食後の片付け、食器拭きなど一緒に行っている。	身体レベルや体調などを考慮しながら一緒にしている。器も陶器を使用。個別の茶碗、コップ、箸を使用。	波佐見焼を使用した食器には、季節に応じた食材が彩りよく丁寧に盛り付けされている。入居者が食器を手にするたびに温かさや冷たさを感じる事ができ、適温食での提供がなされている。ホールでは入居者の状態に応じて席の配置に配慮し、食事時のテレビ音や職員の足音など、入居者が食事にゆっくり向き合える環境が準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: 北)	実践状況(ユニット名: 南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行っている。一人ひとりに合わせ食事や水分の形態の工夫。 水分をこまめにとれるように声掛けを支援している。	食事量を記録している。栄養バランスの工夫として、食事形態をかえたり果物やポカリスエットのゼリー、栄養補助食品の利用やワンプレートにして提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行っている。 本人の口腔内の状態に合わせて定期的に歯科の往診、口腔ケアなどを行っている。	定期的に歯科の往診もありアドバイス、助言いただいている。食後に口腔ケア、義歯の消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握のため排泄表の活用。 トイレや夜間はポータブルトイレで排泄を促すなど自立に向けた支援を行っている。日中は布パンツの使用も促している。	排泄表を活用している。日中はなるべくトイレを使用できるように心がけている。布パンツ、リハビリパンツ、オムツは使い分けしている。	職員は入居者の排泄状況を把握し、個別の声掛け誘導によって排泄の自立に努めている。職員は一人ひとりの排泄動作における困難箇所を把握し、失敗のないケアの実践に努めている。職員は排泄の課題について話し合い、解決に向けた関わりを行うことで入居者が日々の暮らしに自信を取り戻した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し排泄パターンを把握に努めている。 水分摂取を促したり主治医に相談し下剤を調整したりオリゴ糖などを活用している。	主治医に相談しながら下剤の調整を行いながら、飲水(牛乳や豆乳)や乳製品の使用、歩行運動などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日をもうけている。出来る限り個人の希望するタイミングに合わせて個別対応でゆっくりと入浴を楽しめる支援を行っている。	入浴日は決まっているが、希望やタイミングは合わせて入浴している。	浴室は日当たりがよく、大きな窓からは大村湾を眺め気持ちが良い入浴環境を整えている。ホームでは入浴日の設定はあるが、その日の専属の入浴担当者を置き、一日を通して入浴が可能である。入居者は職員と話し合いながら自由に入浴時間帯を決めることができ、それぞれのタイミングで寛ぎながら入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、気分に合わせて居室で休息したりできる。季節に合わせた寝具、衣類の調整、カーテンの開閉など。	状況に応じて休息等取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬局の双方より居宅療養管理指導に入っただいており服薬支援につなげている。その指導書や薬情はいつでも確認できるようにファイルされている。	個別でファイルし都度確認、理解できるようにしている。薬剤師による聞き取り等でも症状の変化の確認につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを出来る人が、その能力を生かした役割を持っている。外出やレクリエーション、会話、好きなものを食べるなど楽しみや気分転換に活かしている。	個人で嗜好品を取り入れたり好きな編み物、パズル、音楽を聴いたりなどの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出(桜・菖蒲・コスモス見学など)を企画している。ウッドデッキや居室、廊下からの眺めがよく、いつでも外気浴など出来るように支援している。家族との外出も支援している。	徐々にではあるが、コロナ禍以前のようなご家族との外食や外出の支援をしていきたい。	感染症への対応が緩和され、今年度は季節ごとの花の見物など外出の機会も増えてきている。ホーム周辺は栗やミカンの木などの植栽に囲まれており、車椅子使用の入居者もホームのウッドデッキを利用して自由に外気浴ができる環境にある。移動が困難な入居者も偏りなく外気に触れることができる環境を整えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を所持されており、使いたいときは支援している。	お金の所持を希望される方にはご家族にも了承いただいて、ご本人の管理のもと財布なども所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話やTV電話ができ職員は支援している。必要に応じて手紙を代読したり手紙を書く支援もしている。	携帯電話を利用されている方もある。電話の支援も行っている。手紙やはがきが来たときは代読したりしてお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除、整理、整頓により環境を整え不快や混乱がないようにしている。玄関、トイレなどに季節の花を飾ったり季節に合わせたタペストリーなどで季節感を取りれている。	換気や清掃を心がけ玄関、リビングなどに季節の花を飾ったり壁にも季節ごとのタペストリーを飾り心地の良い空間にしている。	木のぬくもりに包まれた共有空間は所々で季節の花が飾られ、自然の温かみを感じられる心地の良い空間が整っている。開放的な玄関や廊下には手作りの作品が添えられ、こだわりのベンチでは入居者が洗濯物をたたみながら会話を楽しむ場面もある。職員の足音に注意を払い、無駄な生活音が感じられない心地の良い空間が準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:北)	実践状況(ユニット名:南)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央フロア、ウッドデッキ、廊下のベンチ椅子など自由に使えるようにしている。入居者同士が話をしたりできるように必要に応じて支援している。	中央フロアやリビングソファ、マッサージ機、廊下のベンチなどを利用できるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたタンスや小物、仏壇なども持ってきてもらっている。家族や本人の写真や小物を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。	各居室は馴染みの物や、本、思い出の写真などたくさんある。過ごしやすいようにテーブル、家具等も配置している。	入居者本人や家族と話し合いをし、居室には必要な手回り品や使い慣れた家具の持ち込みを行っている。自宅で使用していたテレビやテーブル・タンスなどは本人が使いやすいよう配置され、自力で居室の手入れを行う入居者もいる。入居者が家族の写真で日々家族を身近に感じ、個人の空間で思いおもいに過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や「お便所」と高齢者にもわかりやすい表記でトイレの場所を示している。リビングルームには日めくりカレンダーを掲示している。	さりげなく手すりが設置してあったり、トイレの場所も分かりやすく掲示している。		